

事業報告

(平成 28 年 4 月 1 日から平成 29 年 3 月 31 日まで)

I 会社の現況に関する事項

1 事業の経過及びその成果

当期における国内経済をみると、雇用・所得環境が改善し、緩やかな回復基調が続きましたが、年度前半には海外経済が弱含みで、国内経済においても個人消費及び民間設備投資は、所得、収益の伸びと比べ力強さを欠いた状況となりました。

一方、県内経済は、希望郷いわて国体の開催効果などから回復基調となることが期待されたものの、東日本大震災津波からの復興工事もピークが過ぎ、生産活動も低調な動きとなったことから、全体としては、足踏み状態となりました。

当社においては、平成 28 年 3 月に開業した北海道新幹線と三陸を組み合わせた大手旅行社の商品は好調に販売されたものの、これまで順調に推移してきた三陸のツアーの販売が減少し、観光客利用の減少がみられるなか、「お座敷列車北三陸号」、「こたつ列車」、「ランチ&スイーツ列車」などの観光列車の運行のほか、「花見かき列車」、「宮古短大ゼミ列車」などの地域連携企画、東京地下鉄株式会社との「福幸スタンプラリー」開催による地域外からの誘客、また、企業ヘッドマーク及び車両ラッピングなど企業等との連携により、利用者の増加に努めてきました。

さらには、関連事業において、引き続き震災学習列車、被災地フロントライン研修等により、災害学習への需要対応を図ったほか、台湾からの観光客取り込みも見据え、台湾鐵路管理局との姉妹鉄道協定の締結を行いました。

しかし、平成 26 年 4 月の全線運行再開から 3 年が経過し、「あまちゃん」効果も薄れてきたなかで、平成 27 年 12 月に発生した JR 山田線盛岡～宮古間の土砂崩れによる不通によって夏休み期間中の山田線直通運転が中止となり、さらに平成 28 年 8 月末の台風 10 号での沿岸北部への甚大な被害発生により観光団体のキャンセルが発生するなどしたことが影響し、第 36 期の輸送人員は、前年度比 85.1%の 513,082 人、鉄道事業収入で同 84.2%の 300,485 千円となりました。

また、観光客の減少により弁当、車内販売、駅売店等の売り上げの減少が続き、旅行業部門においても、被災地視察などの需要減などにより、関連事業収入は、前年度比 63.4%の 56,800 千円となりました。

経常費用については山田線移管に向けた新採用で人件費が増加したものの、年度前半の原油価格の低下による燃料費の減少などにより、前年度比 98.1%の 578,009 千円となりました。

その結果、経常利益は▲215,572 千円となり、特別利益等を加えた当期純利益は▲59,725 千円と前年度と比べて 65,683 千円の減益、当初計画と比べて 62,621 千円の減益となりました。

なお、当社では、安全・安心な輸送を確保するため、老朽化した通信ケーブルの更新、トンネル・橋梁等の改修工事を行い、社員の外部訓練会、研修会への派遣など障害事故の事故防止に取り組み、障害事故 0 件を継続しています。

【損益の状況】

(単位：千円)

項目	28年度 実績	27年度 実績	前年度 増減	前年度比	28年度 当初計画	計画増減	計画比
鉄道事業収入	300,485	356,981	▲56,496	84.2%	332,000	▲31,515	90.5%
関連事業収入	56,800	89,587	▲32,787	63.4%	77,790	▲20,990	73.0%
営業外収益	5,153	6,632	▲1,479	77.7%	5,000	153	103.0%
経常費用	578,009	589,167	▲11,158	98.1%	594,554	▲16,545	97.2%
経常利益	▲215,572	▲135,967	▲79,605	158.5%	▲146,804	▲68,768	146.8%
当期純利益	▲59,725	5,958	▲65,683	—	2,896	▲62,621	—

2 営業の概況及びその成果

(1) 鉄道事業営業概況

① 輸送実績

平成28年度の輸送実績は乗車人員では個札、観光団体の減少で定期外が前年度比80.3%となったことが影響し、全体では前年度比85.1%となる、513,082人となりました。

運輸収入は一般個札75.3%、地元団体64.6%となったことが影響し、前年度比80.1%となる、264,190千円となりました。

【輸送実績】

(単位：人、千円※税抜)

項目	28年度	27年度	増減	前年度比	22年度
乗車人員	513,082	602,856	▲89,774	85.1%	851,456
定期	250,215	275,327	▲25,112	90.9%	469,980
定期外	262,867	327,529	▲64,662	80.3%	381,476
(北リアス線)	(379,042)	(448,611)	(▲69,569)	(84.5%)	(617,750)
(南リアス線)	(134,040)	(154,245)	(▲20,205)	(86.9%)	(233,706)
運輸収入	264,190	329,628	▲65,438	80.1%	322,534
定期券	55,994	58,520	▲2,526	95.7%	92,698
一般個札	117,995	156,696	▲38,701	75.3%	138,715
観光個札	20,170	25,364	▲5,194	79.5%	25,741
地元団体	32,876	50,919	▲18,043	64.6%	16,062
観光団体	37,155	38,129	▲974	97.4%	49,318

② 運転状況

平成28年度の定期列車は、北リアス線で宮古～久慈間を1日22本、普代～久慈間を同1本、田野畑～久慈間を平日に1日2本、それぞれ運転しました。

南リアス線では、盛～釜石間で1日20本を運転しました。

【運転状況】

駅間	宮古～久慈	普代～久慈	田野畑～久慈	盛～釜石
列車本数	22本	1本	2本*	20本

* 田野畑～久慈間は土休日運休

③ 北リアス線十府ヶ浦海岸駅開業

平成 29 年 3 月 25 日に三陸鉄道として 27 番目の駅となる、北リアス線十府ヶ浦海岸駅を開業しました。開業に合わせて、駅愛称を一般公募し、337 点の応募の中から「はまなす香る砂浜」に決定し、開業式席上、表彰を行いました。

さらに、同日は、久慈駅と宮古駅から無料の記念列車を運行しました。

④ 観光列車及びイベント列車等

通常運転の列車に加え、観光列車及び当社、地元団体や企業との共催によりイベント列車を随時運転しています。

また、ヘッドマーク掲出やラッピング等の実施のほか、スタンプラリーなど他社との連携した企画も積極的に実施しています。

【主な観光列車】

お座敷列車北三陸号 北リアス線（4 月末から 10 月末）

こたつ列車 北リアス線（12 月中旬～3 月末）

ランチ&スイーツ列車 南リアス線（ゴールデンウィーク、夏休み、秋の連休、年末年始）

このほか南リアス線で JR 釜石線 SL 銀河に接続する臨時レトロ列車を運転し、南リアス線への誘客を図りました。

【主なイベント列車】

かいけつゾロリ列車（北リアス線：夏休み期間）、花見カキ列車、浜千鳥列車、イオン運転車掌体験、お絵かき列車、アサヒスーパードライ号、三ツ矢サイダー&カルピス号、宮古短大ゼミ列車、サンリアお買い物列車、上閉伊酒造列車、クリスマス列車、初詣号、初日の出号、さんてつ車両洗い隊、ほろ酔い寄席列車、酔仙酒造列車等

⑤ 新企画商品の発売等

- ・くろさき荘（普代村）と連携して、三陸鉄道日帰り湯ったりきっぷを発売しました。

（28 年度実績：宮古発 96 名、久慈発 36 名利用）

- ・十府ヶ浦海岸駅（野田村）の開業にあわせて記念きっぷを発売し、増収を図りました。

（28 年度実績：186 セット発売）

⑥ 台湾鐵路管理局との姉妹鉄道協定の締結

- ・平成 28 年 6 月 1 日に台湾鐵路管理局の海岸線（通称：海線）との姉妹鉄道協定を締結しました。

⑦ 企業等との連携

- ・東京地下鉄株式会社との福幸スタンプラリー開催（東京地下鉄の駅と北リアス線の駅でのスタンプラリー、4 月末～6 月が東京ステージ、7 月～9 月が三陸ステージ）
- ・ポケモン、ヤフーの支援募金を活用して南リアス線の駅名板リニューアルを実施
- ・企業ヘッドマーク及び車体ラッピング

(2) 関連事業営業概況

① 旅行業

着地団体においては、被災地フロントライン研修が、被災地や訪問以降の経年変化により減少傾向が顕著であり、取扱いの中心が大型客船寄港時（久慈港・宮古港・釜石港・大船渡港・八戸港）のオプションルツアーに移行しています。

また、募集型企画の「かいけつゾロリ」企画は好調を維持しているほか、地域の団体旅行や修学旅行の販売等も継続実施しています。

[主な団体旅行の実績]

種類	実績
着地団体	震災学習列車（177 団体 8,423 名）、被災地フロントライン研修（10 団体 184 名）、大型客船オプションツアー（10 団体 598 名）等を催行
一般団体	岩手県漁港漁村協会の「全国漁港漁村大会」参加ツアー、沿線市町村議会の先進地視察研修等を手配
教育団体	修学旅行（中学校 4 校、高校 1 校）、普代中学校神楽同好会仙台公演等を実施
募集团体	かいけつゾロリ企画、三鉄初詣号等を催行

② 物産企画

ア オリジナル商品の開発・販売

- ・三陸ジオパーク推進協議会、JR 東日本との共同企画による「三陸ジオパークお菓子列車」を発売
- ・三陸鉄道行先方向幕タオル、三陸鉄道新型車両イラストタオルの企画販売
- ・三鉄ギフト（夏・冬）の販売（冬ギフトは、過去最高の売上高）
- ・地元企業とのコラボレーションによる三陸鉄道バレンタイン 2017 企画を実施
 連携企業：有限会社 沢菊「久慈ありすのバレンタインケーキ」
 アンジェリック洋菓子店「釜石まなのバレンタインケーキ」

イ イベント外販

- ・いわて国体関連のイベントへの出店
- ・沿線市町村の産業まつり等の地域イベントへの出店
- ・県外イベント（高島屋大東北展、鉄道万博まつり、よこすかYYのりものフェスタ等）への出店
- ・県庁即売会の実施

(3) 安全安定輸送への取組

当社においては、安全、安心でかつ安定的な運転の確保に努めており、平成 28 年度も老朽化が進んだ施設・設備の更新、改修・維持補修を順次、実施しました。

また、保安設備についても新增設が必要な個所への設置、規制区間等の見直しを行うとともに、社員を外部訓練会に参加させる等の教育訓練を行いました。

さらに、社内においては定期的に安全管理委員会を開催するとともに、安全総点検、社内監査などを実施しました。

① 平成 28 年度安全対策事業

- ・鉄道施設総合安全対策事業
 - 北リアス線橋梁改修工事（十三塚架道橋、第 2 長内架道橋）
 - 北リアス線田老～岩泉小本間通信ケーブル更新工事

② 平成 28 年度保安対策事業

- ・外部訓練への参加
- ・安全管理委員会の定例開催及び安全総点検、社内監査の実施
- ・異常時対応の実車訓練を実施（線路支障による退行運転）

(4) 支援の状況

当社は、厳しい財政状況から国、県、市町村等から必要な支援を受けており、平成 28 年度においては、次のとおり支援を受けました。

・鉄道軌道安全輸送等整備事業	180,258 千円
・運営費補助（設備維持補助）	151,900 千円
・台風 10 号被災補助金	11,302 千円

3 対処すべき課題

平成 26 年 4 月の全線運行再開から 3 年が経過し、全線運行再開や「あまちゃん」ブームといった効果も減少しているなか、JR 山田線盛岡～宮古間の不通、昨年 8 月の台風 10 号による沿岸北部を中心とした被災などにより、第 36 期（平成 28 年度）は厳しい経営状況となりました。

さらに、沿線の市町村においては東日本大震災津波、台風 10 号の復興事業も未だ道半ばであることから、駅周辺に地域住民が戻ってくるまでには、まだ相当の時間を必要とするとともに、震災前から見られた少子高齢化の進展による沿線人口の減少や、モータリゼーションの浸透など、今後さらに厳しい経営環境になることが見込まれ、全社を挙げた増収対策や経営改善など、あらゆる努力を行うことが求められます。

また、平成 26 年 3 月に認定を受けた「鉄道事業再構築実施計画」に則り、「安全運行の創造」、「顧客価値の創造」、「共通価値の創造」を目標に、安全性・利便性の向上を図り、投資計画・経費構造の抜本的な見直しや、組織体制の強化、人員の確保と適正な配置など経営資源の効率的な運用を進め、沿線地域住民にとって必要不可欠な交通手段となるように取り組んでいく必要があります。

さらには、平成 31 年に釜石市において開催されるラグビー W 杯への対応や、外国人観光客を含めた交流人口の拡大を柱として利用促進・販売促進の取組を強化し、持続的な路線維持に向けた運営に努めていく必要があります。

今後、平成 31 年春の JR 山田線（宮古～釜石間）の経営移管により、大船渡市から久慈市までの鉄道路線として一体運営を行うことから、経営の効率化を前提に地域住民の地域交通としての役割を担うとともに、日本で最も長い第 3 セクター鉄道として、また、「三陸復興」のシンボルとして、沿岸地域をけん引していくことが期待されています。

4 設備投資の状況

当期に実施した設備投資の総額は 180,258 千円であり、その内容は次のとおりです。

○ 鉄道軌道安全輸送等整備事業	180,258 千円
ア 田老～小本駅間通信ケーブル更新	157,008 千円
イ 北リアス線橋りょう改修工事（第 2 長内架道橋、十三塚架道橋 2 件）	23,250 千円

5 資金調達の状況

該当する事項はありません。

6 直前3事業年度の財産及び損益の状況

区 分	25年度 (第33期)	26年度 (第34期)	27年度 (第35期)	28年度 (第36期)
営業収益	334,151千円	528,494千円	446,569千円	357,284千円
当期純利益	▲51,172千円	86,831千円	5,958千円	▲59,725千円
1株当り当期純利益	▲1,705円	2,892円	198円	▲1,990円
総資産合計	2,398,122千円	530,186千円	511,679千円	720,146千円

7 当該事業年度の末日における主要な事業内容

- (1) 鉄道事業法による第1種鉄道事業及びこれに附帯関連する事業
- (2) 旅行業法による第2種旅行業
- (3) 物品販売業

8 当該事業年度の末日における主要な事業所等

本 社 宮古市栄町4番地
事業所 ・ 事業本部 宮古市栄町4番地
宮古駅 宮古市栄町4番地
施設管理部 久慈市川崎町10番20号
・ 北リアス線運行部 久慈市川崎町10番20号
・ 南リアス線運行部 大船渡市盛町馬場4番4号
釜石駅 釜石市鈴子町22番5号
盛駅 大船渡市盛町字東町裏16
※市町村等への業務委託駅：久慈駅・陸中野田駅・普代駅・田野畑駅・島越駅・岩泉小本駅
三陸駅・綾里駅・(休業駅：田老駅)

9 従業員の状況

区 分	従業員数	平均年齢	平均勤続年数
男 子	65名	45.3才	23年3ヶ月
女 子	1名	22.0才	1年0ヶ月
計	66名	44.9才	22年11ヶ月

※ このほか臨時雇用従業員17名、パート従業員2名、岩手県から1名、(独)鉄道運輸施設整備機構から出向1名、いわて復興応援隊から1名を受入れています。

なお、平成28年4月19日付けで1名、平成29年3月31日付けで3名が退職しました。

10 親会社等に関する事項について

当社は、岩手県及び岩手県内市町村から発行済み株式総数の75.3%(22,600株)の出資を受けています。

※ 岩手県48%(14,400株)、沿線市町村19.3%(5,800株)、沿線外市町村8%(2,400株)、岩手県知事が取締役会長に就任しています。

II 株式に関する事項

- 1 会社が発行する株式の総数 100,000 株
- 2 発行済株式の総数 30,000 株
- 3 当事業年度末の株主 46 名
- 4 主な株主の状況

株主名	持株数	持株比率
岩手県	14,400 株	48.0%
宮古市	1,350 株	4.5%
(株)岩手銀行	1,200 株	4.0%
大船渡市	1,150 株	3.8%
新日鐵住金(株)	1,000 株	3.3%
東北電力(株)	1,000 株	3.3%
一関市	700 株	2.3%
久慈市	650 株	2.2%
釜石市	650 株	2.2%

III 会社役員に関する事項

1 取締役及び監査役の状況

会社における地位	氏名	他の法人等の代表状況等
取締役会長	達増拓也	岩手県知事
取締役副会長	山本正徳	宮古市長
取締役副会長	戸田公明	大船渡市長
取締役副会長	遠藤譲一	久慈市長
取締役副会長	野田武則	釜石市長
代表取締役社長	中村一郎	
取締役	伊達勝身	岩泉町長
取締役	石原弘	田野畑村長
取締役	梶屋伸夫	普代村長
取締役	小田祐士	野田村長
取締役	柳田英輝	岩手開発鉄道(株) 代表取締役社長
取締役	大井誠治	岩手県漁業協同組合連合会 代表理事会長
取締役	坂下政幸	事業本部長
監査役	田口幸雄	(株)岩手銀行 代表取締役頭取
監査役	石塚恭路	(株)北日本銀行 代表取締役専務

2 取締役又は監査役ごとの報酬等の総額

取締役の報酬総額 5,232 千円

監査役の報酬はありません。

IV 決算期後に生じた会社の状況に関する重要な事実

該当する事項はありません。